

日本情報科教育学会第19回全国大会

第19回全国大会現地実行委員（会場校）

崇城大学総合教育センター 助教

松島 拓路

1. はじめに

日本情報科教育学会は、「情報」の教科教育を専門とし、情報科教育の発展に寄与することを目的とする学術団体である。本学会の大きな特徴として、約半数が初等中等の現場の先生で構成されている点にある。年に一度開催される全国大会では、学校現場の実践者、大学等の研究者、教育行政や企業関係者が知見を持ち寄り、情報科教育の今後を展望する重要な機会となっている。

第19回全国大会は、「次期学習指導要領を見据えた小中高大の体系的な学び」という大会テーマのもと、2026年7月11日（土）・12日（日）の2日間、崇城大学メインキャンパス（池田キャンパス）において開催された。本大会の企画から開催までの期間は、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、次期学習指導要領に向けた検討が進められている時期であり、情報・技術ワーキンググループでは、小学校・中学校・高等学校を通した情報教育の体系や、高等学校情報科の今後の在り方に関わる議論が進められていた。そのような状況の中で、「次期学習指導要領を見据えた小中高大の体系的な学び」を大会テーマに掲げたことは、情報教育全体の連続性と発展性を考えるうえで、時宜にかなったものであった。

また、本大会は数年ぶりの地方開催として、九州・熊本の地で実施された全国大会でもあった。全国各地の知見を地方へとつなぎ、新たな対話と協働を生み出す場となった。

2. 第19回全国大会の概要

第19回全国大会の2日間の主なスケジュールは、次のとおりであった。

■ 1日目：2026年7月11日（土）

- 12:00 受付開始
- 12:30 総会
- 13:00 企業ブリーフィング
- 13:40 会長挨拶
- 13:45 会場校挨拶
- 13:50 招待講演
- 14:50 特別講演
- 15:50 企画セッション・ワークショップ
- 17:30 大会1日目終了
- 17:45 情報交換会

■ 2日目：2026年7月12日（日）

- 8:50 受付開始
- 9:30 研究発表1
- 11:00 研究発表2
- 13:30 研究発表3
- 15:00 研究発表4
- 16:20 クロージング・大会終了

本全国大会には2日間で全国から約200名の参加申込があり、プログラムについては、招待講演1件、特別講演1件、口頭発表46件の登壇があった。1日目のプログラムについては現地会場およびオンラインのハイブリッド形式で開催された。

2-1 招待講演・特別講演（1日目）

招待講演では、東京学芸大学副学長であり、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会情報・技術ワーキンググループ主査を務

める堀田龍也先生に、「中央教育審議会での情報関連の審議内容について」という題目でご登壇いただいた。講演では、2024年12月の文部科学大臣からの諮問に「情報活用能力の抜本的向上」が明記された経緯を出発点として、情報活用能力の育成をめぐる審議の動向が中心的に語られた。あわせて、GIGAスクール構想による1人1台端末の整備台数の推移など学習環境の変化を示すデータや、デジタル教科書の実現に向けた法改正等の周辺の動きについても解説があった。小中高大を通じた情報教育の体系化を考えるうえで、教育課程全体の視点から論点が示され、参加者にとって今後の授業改善やカリキュラム検討を進めるうえでの貴重な学びとなった。

特別講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官等を務める須藤祥代先生に、「次期学習指導要領に向けて」という題目でご講演いただいた。講演では、情報・技術ワーキンググループにおける検討状況として、小学校の総合的な学習の時間に付加される「情報の領域（仮称）」、中学校「情報・技術科（仮称）」、高等学校情報科を通じて、情報活用能力を体系的に育成していく方向性が示された。高等学校情報科については、AIやデータの扱いをはじめとする学習内容の充実、情報Ⅰ・情報Ⅱの内容項目の再整理、探究的な学びを充実させる「PBLによる課題解決の実践（仮称）」等の新設といった検討中のイメージが、学習活動の例とともに紹介された。また、産業教育ワーキンググループで議論されている専門教科情報科へのデータサイエンス・AIに関する分野の新設や、2026年度中に予定される答申に向けた今後のスケジュールにも触れられた。次期学習指導要領を見据え、これからの情報教育においてどのような資質・能力の育成が求められるのか、また高等学校情報科がどのような方向へ発展していくのかを考えるうえで、重要な示唆を得る機会となった。

2-2 企画セッション・ワークショップ（1日目）

1日目の最後には、九州・中国・四国支部の主催、情報科教員研修委員会・情報科教育連携委員

会の共催により、企画セッション・ワークショップ「新学習指導要領で求められる力をどう育てるか～共通テストの出題傾向から考える情報科の授業づくり～」が2会場に分かれて開催された。

昨年度に引き続き、大学入学共通テスト「情報」がテーマとして取り上げられた。2年間の共通テストの出題を見ると、単なる知識の暗記にとどまらず、情報や情報技術に関する概念を深く理解し、それらを実際の場面に応用しながら、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が多く見られる。本年度は、こうした出題傾向や求められる資質・能力を改めて整理した上で、新学習指導要領で求められる力を情報科の授業の中でどのように育成していくのかを、模擬授業を通して参加者とともに検討することがねらいとされた。

模擬授業・授業提案は、共通テストの大問1～4を題材として、2会場で2本ずつ実施された。SoLA会場（司会：阿濱茂樹先生・山口大学）では、平田篤史先生（広島大学附属福山中・高等学校）と伊藤大貴先生（大分県立日田高等学校）が、M号館会場（司会：松尾康德先生・代々木ゼミナール）では、三輪理人先生（愛知県立南陽高等学校）と山下裕司先生（山口県立岩国高等学校）が、それぞれ授業を提案した。



図1 平田先生による模擬授業の様子

各模擬授業・授業提案の後は振り返りの時間が設けられ、共通テストはあくまで授業改善の材料であり、問題を解かせること自体を目的とするの

ではなく、共通テストを見据えて授業の中でどのような学習経験をさせるかが重要であること、学校教育目標から逆算した授業設計が求められることなどが共有され、参加者との活発な意見交換が行われた。

教材はGoogle Classroomで共有され、それをさらに改善するような議論もなされており、「明日からでも実際に授業で使いたい」「これを使った授業を検討している」といった声も聞かれた。情報科は1校1人配置であることも多く、なかなか他の先生の授業を見学できる機会は少ない。そのため、模擬授業という形式は非常に満足度の高いものになったと考えられる。

なお、1日目終了後には、大学構内の学生食堂（慶賓館）において情報交換会が開催され、講演や模擬授業の内容を話題としながら、参加者同士の交流が深められた。



図2 伊藤先生による模擬授業の様子

2-3 研究発表（2日目）

2日目は3会場に分かれて46件の口頭発表が行われた。発表内容は、教材やシステムの開発、授業実践、小中高大のカリキュラムや教科間の連携、教員養成・教員研修、共通テスト「情報Ⅰ」の得点構造の分析など、多岐にわたるものであった。

特に本年度は、生成AIに関する発表が数多く見られたことが印象的であった。生成AIを活用した教材開発や授業実践に加え、学習状況の見取りや振り返りの支援、情報モラルやAIリテラシ

ーの育成など、その切り口はさまざまであり、生成AIと情報科教育の関わりが学校現場・研究の双方で大きな関心事となっていることがうかがえた。各会場では、学校現場の教員と大学等の研究者が立場を越えて質疑を交わし、休憩時間にも議論が続く様子が見られた。



図3 研究発表の様子

3. おわりに

次期学習指導要領に向けた検討が進む中で開催された本大会は、講演、企画セッション・ワークショップ、研究発表を通して、これからの情報教育をどのように体系化し、どのような授業を実現していくのかを、参加者全員で考える2日間となった。現地実行委員の一員として運営に関わった筆者にとっても、全国の実践者・研究者と直接議論を交わすことのできた貴重な機会であった。

今回の全国大会は、記念すべき第20回大会となる。次期学習指導要領では、小学校「情報の領域（仮称）」や中学校「情報・技術科（仮称）」の新設が検討されるなど、小学校・中学校においても情報教育の重要性は一層増していくことが見込まれる。小中高大を通した情報科の体系化が進むこれからは、高等学校の先生方を中心とする本学会においても、小学校・中学校の先生方の実践や知見がますます重要になる。本稿を通して本学会の活動に興味を持たれた方は、ぜひ入会や次回大会への参加をご検討いただきたい。小学校・中学校の先生方のご参加も、心よりお待ちしております。